

インフォメーション・コーナー

会 告

平成 20 年度農業農村工学会賞の決定について	70
平成 21 年度農業農村工学会賞候補の推薦について	70
研究部会長の交代について	71
平成 20 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について	71
平成 20 年度「研究グループ」の助成希望者募集について	72
平成 20 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について	72
平成 20 年度農業農村工学会大会講演会の開催について（第 3 報） 	73
第 32 回水の週間「ウォーターフェア 08 東京」農業用水の展示出展について	74
平成 20 年度 JABEE 農学系審査員研修会への参加のお願い 	74
「水土の知（農業農村工学会誌）」読者の氏名公表とご協力のお礼	74
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	74
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのごお願い	75
「農業農村工学会学術基金」の募金について	75
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	76
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと 編集事務局（投稿先）のお知らせ	76
「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	77
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 21 年春期の表紙写真の募集	78
支部講演会の投稿票について	78
第 59 回関東支部大会講演会の開催について（第 1 報） 	78
第 65 回京都支部研究発表会の開催について（第 2 報） 	80
第 37 回中国四国支部研修会・第 32 回地方講習会の開催について（第 1 報） 	82
農地保全研究会第 29 回研究集会の開催について（第 1 報） 	82
農業農村工学論文集第 255 号内容紹介	83
学会記事	86

第 76 巻第 7 号予定

展望：農地利用の公的管理：佐藤洋平

小特集：耕作放棄地の解消と再発防止

耕作放棄地への作物導入事例：吉田 明他

集落連携による耕作放棄地の再生：福与徳文

耕作放棄地の農園利用としての継続性に関する事例的考察：九鬼康彰

耕作放棄地の解消対策としての地域活性化とその土台づくり：吾郷秀雄他

耕作放棄水田における基盤管理のための土壌物理性の考察：粟生田忠雄他

技術リポート

北海道支部：大区画圃場において水口配置の違いが初期灌水量に与える影響：久保雅俊他

東北支部：千貫石ため池の改修設計について：藤川直人

関東支部：農業集落排水事業における処理時の硫化水素ガスの発生抑制策：吉田 悟

京都支部：応力解放に伴う堤体基礎地盤の N 値の低下について：萩尾俊宏

中国四国支部：FRP 型膜分離活性汚泥方式による集落排水施設の設計例：渋谷修司他

九州支部：総合評価落札方式による FP 工事の発注について：西園一登他

小講座：耕作放棄地の状況について：隅田秀作

私のビジョン：福島県の遊休農地活用対策の現状と今後：塩澤賢一

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓜのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成20年8月26~28日	大会運営委員会	平成20年度農業農村工学会大会講演会 Ⓜ		秋田市	75巻12号 76巻1,3,6号
平成20年9月24日~26日のうち一日	資源循環研究部会	平成20年度資源循環研究部会研究発表会 Ⓜ	農村における水やバイオマス等資源の利活用および循環に係る調査・研究の最新成果	東京都	76巻3号
平成20年10月21,22日	関東支部	第59回講演会 Ⓜ		長野市	76巻6号
平成20年10月21,22日	中国四国支部	第63回講演会 Ⓜ		広島市	76巻5号
平成20年10月22日	北海道支部	第57回研究発表会 Ⓜ		札幌市	
平成20年10月23,24日	農地保全研究部会	第29回研究集会 Ⓜ	中山間地における農地保全・地域資源の活用	松阪市	76巻6号
平成20年10月30,31日	九州支部	第89回講演会・シンポジウム 第31回講習会・現地見学会 Ⓜ		沖縄市	76巻5号
平成20年11月6,7日	京都支部	第65回研究発表会 Ⓜ		福井市	76巻5,6号
平成20年11月13,14日	中国四国支部	第37回研修会・第32回地方講習会 Ⓜ		岡山市	76巻6号
平成20年11月19日	北海道支部	第35回研修会 / 第31回シンポジウム Ⓜ		札幌市	
平成21年2月3日	北海道支部	地方講習会 Ⓜ		札幌市	

平成20年度農業農村工学会賞の決定について

平成20年度の農業農村工学会賞は、平成20年5月16日(金)の理事会において、学術賞1件、研究奨励賞4件、技術奨励賞1件、優秀論文賞4件、優秀技術賞1件、優秀技術リポート賞5件、著作賞2件、環境賞1件、歴史・文化賞1件、地域貢献賞1件、メディア賞2件、功労賞4件、上野賞2件、

沢田賞2件が決定いたしました。授与式は、来る8月26日(火)に秋田県立大学秋田キャンパス講堂で行われます。なお、詳細は本号巻頭平成20年度農業農村工学会大会講演会ページを参照下さい。

平成21年度農業農村工学会賞候補の推薦について

平成21年度の農業農村工学会賞(上野賞、沢田賞を除く)を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切りは、平成20年10月末日です。推薦書様式は学会HPをご参照下さい。

平成21年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞		
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する単独の研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象範囲および期間	平成15年10月から平成20年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成17年10月から平成20年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成17年10月から平成20年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成19年10月から平成20年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。	平成18年10月から平成20年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成15年10月から平成20年9月までに、本学会の刊行物に発表された技術リポート (ただし、平成21年度の募集は農業農村工学会誌75巻1月号~76巻9月号を対象とする)
受賞候補者	会員			会員または会員の属する組織・団体		会員
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。		

賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広ぐ世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる著者	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工の事例並びに管理・保全活動	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析の業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介した優れたパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象範囲および期間	平成10年10月から平成20年9月までに出版されている一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。	平成15年10月から平成20年9月までの業績を対象とする	平成18年10月から平成20年9月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの、また、完工した建築物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成15年10月から平成20年9月までの業績を対象とする	平成15年10月から平成20年9月までの活動を対象とする	平成15年10月から平成20年9月までの活動を対象とする	平成18年10月から平成20年9月までに発表された、農業土木に関連した作品を対象とする。	平成20年度末に65歳以上に達している個人
受賞候補者	著者 会員の資格の有無を問わない	会員または会員の属する組織・団体	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員または会員の属する組織・団体	会員	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員（名誉会員を除く）
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	平成20年10月末日							
提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

研究部会長の交代について

平成20年4月1日付で下記研究部会長が交代しました。

記

研究部会名 応用水理研究部会

新部会長 泉 完（弘前大学農学生命科学部教授）

前部会長 板垣 博

研究部会名 農地保全研究部会

新部会長 成岡 市（三重大学生物資源学部教授）

前部会長 長澤 徹明

平成20年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について

学術基金運営委員会

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成20年度は、規程第4条(1)の「特定の分野および学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の促進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申し込み下さい。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員（学生会員を含む）、または会員により構成されるグループ

2. 援助方針

(1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の

調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。

(2) 平成20年度中（平成20年4月から21年3月）に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

(3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度を限度とする。

4. 申請締切 平成20年7月31日（木）

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出し、その原稿は学会誌に掲載される。

6. 申込・問合せ

〒105 0004

東京都港区新橋 5 34 4 農業土木会館 3F
 農業農村工学会 学術基金運営委員会
 ☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494
 E-mail : suido@jsidre.or.jp

平成 20 年度「研究グループ」の助成希望者募集について

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度 3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 20 年 6 月 30 日(月)ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会 HP 参照)で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

る。

- (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。
- (ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。
- (ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。
- (ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に 40 歳未満であること。
5. 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。
 注 1 研究経過報告書の執筆にあたり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷り上がり 1~2 ページに収まるようにまとめること。
 注 2 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成 20 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は 60 万円程度(平成 20 年度、原則 1 件 20 万円以内)です。

本年度の申請締切は平成 20 年 9 月 19 日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書

作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。

3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
- (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
- (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をお

き、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成20年9月19日

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

平成20年度農業農村工学会大会講演会の開催について(第3報)

平成20年度農業農村工学会大会運営委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成20年度農業農村工学会大会講演会は、平成20年8月26日(火)27日(水)28日(木)の3日間、秋田市の秋田県立大学秋田キャンパスで開催されます。また29日(金)には現地研修会27日(水)28日(木)にはショート研修会を実施する予定です。

本報では、講演発表の手順など、いくつかの連絡事項についてお知らせします。

なお、割引のある大会参加申込みは6月30日(月)が締切りとなっています。まだお申込みでない方は、学会ホームページからお申し込み下さい。参加申込の詳細は3月号会告をご覧ください。

1. 講演発表の手順

学会での口頭発表は1月号の会告通り、PCを用いたプロジェクターでの発表になります。

Windows XPとPower Point 2003がインストールされたPCとプロジェクターを各会場に用意します。携帯型メモリー等で発表用データをお持ちいただき、セッションがはじまる前(休憩時間等)にPCへのデータの移動を完了させておいて下さい。なお、PCのお持ち込みもできますが、プロジェクターへの接続確認をセッションがはじまる前に行ってください。

2. 会場の使用について

部会の会議などで会場を使用する場合は7月31日(木)までに、委員の近藤(t_kondo@akita-pu.ac.jp)または永吉(tnaga@akita-pu.ac.jp)へ、会議名、使用希望日時、参加予定人数、連絡責任者をE-mailでご連絡下さい。連絡のあった順に会場を用意します。なお、会場の都合上、希望される部屋の規模が確保できない場合がありますのでご了承下さい。

3. ポスター発表について

ポスター発表はキャンパス内の図書・メディア・講堂施設棟ホワイエで行います。ポスター会場に、ポスター賞のための投票用紙を用意しますので、おひとり一枚お取りいただき、賞にふさわしいと思われるポスターについてご投票下さい。大会2日目(8月27日)の14時30分に投票を締め切り、その後16時30分からポスター会場において優秀なポスターについて賞

を授与します。なお、紛失を防ぐために投票用紙はポスター会場でお渡しします。

4. ポスター発表の手順

ポスター発表をされる方は、A0判(縦1188mm×横841mm、A4判等での分割作成も可)のポスターをお作りいただき、ポスター会場にご持参下さい。ピンなどは会場側で用意します。大会1日目(8月26日)の13時から17時までの間に指定されたパネルに掲示し27日の10時45分からのコアタイムには発表者がポスター前で説明ができるよう、準備して下さい。ポスターの回収は16時30分からのポスター賞授与後に、発表者各自でお願いします。

5. 広告掲載および企業展示コーナー出展の募集

平成20年度農業農村工学会大会講演会では、大会講演会概要集等への広告掲載を行います。また大会開催期間中は会場内の企業展示コーナーを設けます。広告掲載および展示出展を希望される企業がありましたら、下記までお問い合わせ下さい。

【広告掲載と企業展示パターンと各参加料】

次の5パターンがあります。

広告1ページ	6万円
広告1/2ページ	3万円
企業展示	3万円
広告1ページ+企業展示	8万円
広告1/2ページ+企業展示	5万円

【広告掲載誌】

大会講演会概要集(B5判モノクロ印刷、大会参加者全員(約1,000人)に配布)および、秋田コーナー(大会共催)パンフレット(モノクロ印刷)に掲載します。

【企業展示】 講演会場内、10~20ブースを予定しています。

【問合せ先】

平成20年度農業農村工学会大会運営委員会事務局
〒010 0444 秋田県南秋田郡大潟村字南2-2

秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科 近藤 正

☎0185 45 3918 FAX 0185 45 2377

E-mail：t_kondo@akita-pu.ac.jp

第32回水の週間「ウォーターフェア08東京」農業用水の展示出展について

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催『ウォーターフェア08東京』は例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として、関係諸団体の協力を得て、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、昨年までと同様に展示の準備を進め出展

することとなりました。

多くの方の来場をお待ちしております。

展示の場所 科学技術館（千代田区北の丸公園21）

期 日 平成20年7月25日（金）～7月28日（月）

平成20年度 JABEE 農学系審査員研修会への参加のお願い

技術者教育認定に関する検討委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



本年も JABEE 農学系審査員研修会が7月26日に東京大学弥生講堂にて開催されます。多くの皆様の参加を期待しております。奮って、ご参加下さい。

（なお、プログラム等、詳細は決定次第農業農村工学会ホームページに掲載する予定です。）

1. 日 時 平成20年7月26日（土）9:25～17:30
（17:30より懇親会あり）

2. 場 所 東京大学弥生講堂
〒113 8657 東京都文京区弥生111
東京大学農学部内

<http://www.au-tokyo.ac.jp/yayoi/>

3. 参加費 5,000円（当日現金にて支払い）

4. 懇親会費 2,000円（当日現金にて支払い）

5. 申込方法

農業農村工学会ホームページより、申込書および審査員登録票（電子メール版）をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記の学会に電子メールで申し込む。

6. 申込先 農業農村工学会事務局 菊辻 猛・花塚賀央

E-mail: hanatsuka@jsidre.or.jp

7. 申込締切 平成20年7月18日（金）

「水土の知（農業農村工学会誌）」読者の氏名公表とご協力のお礼

平成19年4月から平成20年3月までの期間に閲覧いただきました方々の氏名を学会誌4月号の会告で公表させていただきましたが、事務局の手違いにより、読者氏名の記載もれがあり、大変申し訳ございませんでした。つきましては、改めて、下記の方々の氏名を公表させていただきます。この一年間

に学会誌の内容充実にご協力、貢献いただきまして、まことにありがとうございました。

今後とも、ご支援ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

安中 武幸	北川 巖	鈴木 貞夫	永吉 武志	渡部 一之
伊藤 正彦	工藤 庸介	高橋 清隆	野本 健	
大久保 博	佐々木 一郎	辻 修	濱崎 隆文	
柏木 淳一	佐々木 次郎	土佐 久幸	細井 俊宏	
梶原 晶彦	佐々木 雄康	中村 和正	村上 章	

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPD、また、通信教育で最大年間18CPD取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農

業農村工学会のホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）にある参加申込書に必要事項を記載してメール（E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp）あるいはFAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ <http://www.jsidre.or.jp>、<http://www.jsidre.or.jp/cpd> に申込様式がありますので、ご記

入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の運営委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。(☎03 5777 2098)

4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容

から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPD、満点で1.5CPDが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成19年度までに46件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名(社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2008年6月に Vol 6, No 2 が発刊されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ パイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は, 学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm> の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2008年6月に Vol 6, No 2 が発刊されます。

わが国においても学術誌の評価に、SCI Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

投稿先: PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703,

Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、パイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制 (2006.1.1~2008.12.31)

• Editor in Chief : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Former Professor, Kyushu University, Japan

• Editors 13 カ国から 14 名

• Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan
 Prof. Dr. Masaru MIZOGUCHI
 Department of Global Agricultural Science, University
 of Tokyo, Tokyo, Japan
 Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE
 Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)
 Kyoto, Japan
 Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering,
 National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of
 China

出版社：Springer Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載していま
 す。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農
 業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要
 項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投
 稿下さい。

学会誌 76, 77 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1 500 字以内)	原 稿 締 切 (刷 り 上 り 4 ページ厳守)
76 巻 7 号 耕作放棄地の解消と再発防止	公募終了	
8 号 農業農村整備事業における環境配慮の取組み(仮)	公募終了	
9 号 電磁波計測技術の農業農村工学分野への活用(仮)	公募終了	
10 号 北海道における水田の再編整備と農業生産の組織化(仮)	公募なし	
11 号 地球温暖化防止と農業農村工学技術(仮)	公募終了	
12 号 限界集落の現状と課題(仮)	公募終了	平成 20 年 7 月 15 日
77 巻 1 号 創立 80 周年を迎えるにあたって(仮)	公募なし	
2 号 農業農村整備技術の継承と技術者育成(仮)	平成 20 年 7 月 25 日	平成 20 年 9 月 12 日
3 号 農業農村整備事業の効果・効用(仮)	平成 20 年 8 月 25 日	平成 20 年 10 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail : henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするのと同時に、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

「オフィス便り」は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・

「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

「キャンパス便り」は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、刷り上り 1 ページ(1,800 字程度)で、写真を 1~2 枚程度入れて下さい。

「私の薦める本」は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷り上り 1 ページ以内(1,200 字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知(農業農村工学会誌)」平成21年春季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成21年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にけい込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが国家規模のプロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域にも、規模の違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「春」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」
(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第77巻(平成21年1~12月号)のうち、特に春季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 平成20年6月30日(春季の写真)

6. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意下さい。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

支部講演会の投稿票について

支部講演会への投稿要領のうち、原稿や投稿票の作り方の統一された部分を一括して学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)に掲載しますので、支部講演発表希望者各位は、投稿票と同じ項目のファイルの入ったフロッピーディスクを各

支部講演会担当者宛ご提出下さい。

ただし、各支部の投稿規定等別途指示がある場合は、各支部の投稿規定に従って下さい。

第59回関東支部大会講演会の開催について(第1報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 大会および講演会

(1) 日時 平成20年10月21日(火)

・受付 9:00~10:00

・支部大会 10:00~11:00

・講演会 11:00~17:00

(2) 会場 長野市若里市民文化ホール

・受付 エントランスホール

・支部大会 若里ホール

・講演会 若里ホール、中会議室、特別会議室 B

【会場問合せ先】

〒380 0928 長野市若里 3 22 2

☎026 223 2223

2. 情報交換会

(1) 日時 平成20年10月21日(火) 17:30~19:30

(2) 会場 長野市内予定

3. 現地研修会

(1) 日時 平成20年10月22日(水)

8:50 集合(長野駅予定)

9:00 出発

15:00 解散(予定)

(2) コース(予定)

・長野市近郊農業農村整備事業現地

4. 講演会、情報交換会および現地研修会の参加申込方法

(1) 申込み

「第 59 回農業農村工学会関東支部大会講演会参加申込書」に必要事項をご記入し、所属機関ごとに取りまとめるうえ、E-mail または FAX、郵送にてお申し込み下さい。

- ・郵送にてお申込みの場合は、コピー（控え）をとっておい
- て下さい。
- ・支部大会もしくは講演会のみ参加の場合においても、お申込みをお願いします。

(2) 申込期限

平成 20 年 8 月 29 日（金）

(3) 参加費

- ・講演会 第 2 報でお知らせします。
- ・情報交換会 //
- ・現地研修会 //

(4) 参加費の納入方法

第 2 報でお知らせします。

(5) 申込先および問合せ先（事務局）

〒380 8570 長野県長野市大字南長野字幅下 692 - 2
長野県農政部農地整備課（担当 松本，丸山，大野，宮尾）

☎026 235 7241（直通） FAX 026 233 4069

E-mail : nochi@pref.nagano.jp

(6) 申込様式

申込様式は、長野県農政部農地整備課ホームページ上にも掲載してありますので、ファイルをダウンロードしてご利用いただくことも可能です。

URL <http://www.pref.nagano.jp/nousei/nochi/taikai/index.htm>

第 59 回農業農村工学会関東支部大会講演会参加申込書

ふりがな 所属			電話番号		
ふりがな 申込者氏名			FAX 番号		
所属所在地	〒				
ふりがな 参加者氏名	大会講演会 (10月21日) 出席 欠席 x	CPD 番号 (農業土木技術者継続教育機構)	情報交換会 (10月21日) 出席 欠席 x	現地研修会 (10月22日) 出席 欠席 x	銀行振込者所属・氏名
<例> 長野 太郎		123456789			県 x 課 長野 雪夫

講演会、情報交換会および現地研修会の欄は、出席の場合は を、欠席の場合は x を記入して下さい。

5. 講演発表者申込方法

(1) 申込み

農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) から「平成 20 年度支部大会講演会投稿票」をダウンロードし、「支部講演会の投稿票について」の 2 から 4 に従って必要事項を記載し、(3)あてメール送信して下さい。

(2) 申込期限

平成 20 年 7 月 31 日（木）

(3) 申込先および問合せ先

5 の(5)と同じ。

6. その他

(1) 会場への案内

- ・大会講演会
バス：JR 長野駅東口～日赤・水野美術館線「水野美術館」
下車徒歩 3 分

バス：JR 長野駅西口～保科線「ビッグハット」下車徒歩 1 分

バス：JR 長野駅西口～日赤松岡線「ビッグハット」下車徒歩 1 分

タクシー：長野駅東口から 10 分

お車：上信越自動車道長野 IC から 20 分

- ・情報交換会：未定

(2) 宿泊場所

宿泊場所の斡旋は行いませんので、下記のホームページの宿泊施設一覧を参考にいただき、各自でご手配をお願いします。

【参考】(財)ながの観光コンベンションビューロー

☎026 223 6050

- ・宿泊施設一覧

URL <http://www.nagano-cvb.or.jp>

第65回京都支部研究発表会の開催について(第2報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 研究発表会

- (1) 日時 平成20年11月6日(木)
10:00~17:00(受付開始9:00~)
- (2) 会場(開会式~講演会~分科会)
福井県県民ホール(福井市手寄1丁目4番1号アオッサ8階)
福井市地域交流プラザ(福井市手寄1丁目4番1号アオッサ5,6階)
- (3) 会場までのアクセス
JR北陸本線「福井駅」徒歩1分
えちぜん鉄道「福井駅」徒歩1分

2. 情報交換会

- (1) 日時 平成20年11月6日(木)18:00~20:00
- (2) 会場 福井県県民ホール(福井市手寄1丁目4番1号アオッサ8階)

3. 現地研修会

- (1) 日時 平成20年11月7日(金)
 - ・日野川コース 集合9:00 JR福井駅東口
解散16:00 JR福井駅東口
 - ・足羽川コース 集合9:00 JR福井駅東口
解散16:00 JR福井駅東口

(2) 内容

- ・日野川コース ふくいの資源体験
パピルス館(越前市)

越前和紙の起源は、今から1500年ほど前、この地にある岡太川の上流に美しい姫が現れて「この地は清らかな水に恵まれているから紙漉きをして生計を立てよ」と、紙漉きの技を里人に教えたことにあるといわれています。以来「越前奉書」など最高品質を誇る紙の産地として発展してきました。明治元年に発行され、現在の紙幣の元となる「太政官金札」には越前和紙が使用されました。

池田町の挑戦

ほ場整備事業とゆうき・げんき正直農業

池田町では「大地の恵みを大地に返そう」を合い言葉に、回収された生ゴミ等を堆肥にし、それらを農地に施用し土づくりを農業や化学肥料をできるだけ使わない工夫をすすめて、平成12年4月より全町を挙げた独自の栽培ルールによる「池田町ゆうき・げんき正直農業」に取り組んでいます。「農村力を活かせ!環境先進農村への道」をテーマにした町民一体の環境施策への取組みが高く評価され、第5回自治体環境グランプリで最優秀の環境大臣賞を受賞しました。

そば道場(池田町)

「越前おろしそば」が全国に広まったのは、昭和22年10月、昭和天皇が福井に来られた際、おろしそばを2杯お召し上がりされ、皇居に戻られた後、「越前のそばは大変おいしかった」とおっしゃられた事がきっかけとなっています。

国営・県営かんがい排水事業 日野川用水地区の見学(越前市,南越前町)

本地区は、福井県のほぼ中央を流れる九頭竜川水系日野川の両岸に広がる水田面積5,610haの穀倉地帯で3市1町(越前市・鯖江市・福井市・南越前町)にまたがります。事業では、日野川の支川・榎谷川に水源を確保するため榎谷ダムを、取水施設として八乙女頭首工を築造し、国営および県営かんがい排水事業により幹線・支線用水路を整備しました。平成18年春から供用開始しています。

・足羽川コース ふくいの歴史探訪

農業用水の歴史をたどる(福井市)

ア県営水環境整備事業 横山地区の施設見学

本地区は福井県嶺北地方の中央に位置し、戦国大名朝倉氏の城下町として栄えた歴史のある地域です。地域を流れる徳光用水路を改修する際に、地域ぐるみで水辺環境の整備に取り組み、歴史と自然と人が調和する安らぎのある親水空間を創出しています。

イ県営かんがい排水事業 足羽川頭首工地区の施設見学

本頭首工は、福井平野の約2,000haの農地を潤す重要な取水施設となっています。元禄元年(1687年)、福井藩の用水奉行となった戸田弥次兵衛英房公により取水口や幹線水路の大改修が行われ、1692年~1698年には徳光用水と酒生用水に木工沈床の堰堤、六条用水に取水口が築かれたのが本堰堤の起源となっています。

一乗谷の歴史をたどる(福井市)

ア県営中山間地域総合整備事業 一乗地区の施設見学

一乗地区は、今から約500余年前に5代103年間にわたって越前を支配した戦国大名・朝倉氏の城下町として栄えた地域です。一乗谷朝倉氏遺跡は、昭和42年から初めて本格的な発掘調査が始まり、平成3年には遺跡内の4つの庭園が、国の「特別名勝」にも指定されるなど、県内を代表する観光名所となっています。中山間地域総合整備事業では、地域の歴史と自然を生かしながら潤いのある農村社会を実現するため、地域の活動拠点となる「一乗ふるさと交流館」などを整備しました。ふくいの古代生物と今の生き物に配慮した施工事例(大野市,勝山市)

ア経営体育成基盤整備事業 小山北部地区での環境配慮

工事の説明と見学

本地区は大野市の西部に位置し、平成 14 年度から大区画は場整備を実施しています。本地区では、生態系に配慮した工事の計画・施工に際して、NPO 法人「田んぼの学校越前大野」からの助言を受けながら実施するなど、自然豊かな農村環境の保全を目指しています。

イ 福井県立恐竜博物館（勝山市）

博物館は、恐竜に関する資料を展示した、恐竜に関する国内最大級の博物館です。4,500 m²という広大な展示室には、30 体以上もの恐竜骨格をはじめとして千数百もの標本の数々が展示されています。

4. 投稿の申込み等

(1) 原稿投稿先および期限

研究発表申込みをされた方は、下記の投稿要領に基づき作成した講演要旨原稿に投稿票（様式は、<http://www.jsidre.or.jp/news/kqikoku/20shibutoukou.htm> よりダウンロードして下さい。）を添えて、平成 20 年 7 月末日までに、下記・新潟大学吉川宛に届くようお送り下さい。

〒950 2181 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地

新潟大学農学部 吉川 夏樹

TEL&FAX 025 262 6653

E-mail : natsuky@agr.niigata-u.ac.jp

(2) 投稿要領

- ・投稿発表者は、農業農村工学会会員とします。
- ・投稿要領および原稿の書式については、農業農村工学会ホームページ内の「支部講演会の投稿票について」（<http://www.jsidre.or.jp/news/kaihou/shibu.pdf>）を参照して下さい。枚数は図面を含めて 2 枚とします。発表時間は 12 分（質疑応答は 3 分）です。原稿はそのまま印刷しますので、鮮明なものを提出して下さい。発表の補助道具としてパソコン（OS は Windows，ソフトは PowerPoint 2000）を準備します。データは CD-R，USB メモリーでご用意下さい。（OHP，ビデオプロジェクトを希望する場合はご連絡下さい。）

5. 参加申込方法

(1) 参加申込み

参加申込みは、農業農村工学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加申込みについて（http://www.jsidre.or.jp/newinfo/kyoutoshibu_kennkyuuhappyoukai.htm）にアクセスし、参加申込書をダウンロードして下さい。参加申込書に必要事項を記載の上、電子メールにて ntaworld-fukui@h3dion.ne.jp まで送付して頂きますようお願いいたします。（電子メールが使用できない場合は、FAX・郵送でも受付いたしますが、事務の簡素化のため電子メールの使用にご協力をお願いします。）

(2) 申込期限 平成 20 年 8 月 29 日（金）

(3) 参加費等 研究発表会 4,500 円

情報交換会 5,000 円

現地研修会 6,000 円（昼食代含む）

(ア) 昼食

会場付近にレストランはございますが、混雑が予想されます。弁当を 1,000 円/個で受け付けていますのでご利用下さい。

(イ) 参加費の納入

申込みを受け付けた後、(株)日本旅行ワールド福井営業所より 9 月下旬以降に確認書・請求書を送付いたしますので、内容を確認のうえ、参加費を「6 申込先・振込先・問合せ先」の振込先へ 10 月 17 日（金）までにお振り込み下さい。振込手数料については振込人負担をお願いいたします。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承下さい。

(4) 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋は、(株)日本旅行ワールド福井営業所を通じて行います。ご要望の方は、農業農村工学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加要領の部宿泊斡旋施設一覧表の中から施設をお選びいただき、参加申込書に該当するホテルの記号を記載して下さい。なお、客室数の都合上希望に添えない場合がございますのでご了承下さい。

6. 申込先・振込先・問合せ先

(1) 申込先

株式会社日本旅行ワールド福井営業所 担当：明石

〒910 0851 福井市米松 1 15 41

申込用電子メールアドレス ntaworld-fukui@h3.dion.ne.jp（取り消しも電子メールで結構です。）

☎0776 53 3003 FAX 0776 53 3013

営業時間：平日 10：00～19：00

土・日・祝日 10：00～18：00

(2) 振込先

福井銀行 今市支店 普通口座 0138237

口座名 株式会社日本旅行ワールド

（カブシキガイシャニホンリョウコウワールド）

7. 事務局

福井県農林水産部農村振興課内

第 65 回農業農村工学会京都支部研究発表会運営委員会事務局

担当 木戸，印牧

☎0776 20 0452（直通） FAX 0776 20 0656

E-mail : t-kanemaki-ou@pref.fukui.lg.jp

第37回中国四国支部研修会・第32回地方講習会の開催について(第1報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日時

平成20年11月13日(木)から11月14日(金)

2. 会場

岡山衛生会館・三木記念ホール
〒703 8278 岡山市古京町1 1 10
☎086 272 3275 FAX 086 272 3256

3. 問合せ先

岡山県農林水産部耕地課水利・ほ場整備班 横山, 武村
〒700 8570 岡山市内山下2 4 6
☎086 226 7434(ダイヤルイン)
086 224 2111(代表; 内線 3244, 3238)
FAX 086 222 9621

農地保全研究部会第29回研究集会の開催について(第1報)

「中山間地における農地保全・地域資源の活用」

技術者継続教育プログラム認定申請中



農地保全研究部会では、平成20年10月23, 24日の両日、三重県松阪市で研究集会および現地見学会を開催致します。部会員はもちろんのこと、農業農村工学会会員・非会員を問わず、多数の参加をお願い致します。プログラムの詳細等につきましては第2報以降でご連絡致します。

1. 開催日

研究集会：平成20年10月23日(木)10:00~17:00
(受付9:30~)

現地見学会：平成20年10月24日(金)9:30~17:00

2. 場所

研究集会：松阪商工会議所(松阪市若葉町161 2)
現地見学会：松阪市および近郊町における農業農村整備事業関係施設等

3. 問合せ先

〒514 8507 津市栗真町屋町1577
三重大学大学院生物資源学研究所共生環境学専攻地域保全工学講座 酒井俊典
TEL&FAX 059 231 9580
E-mail : sakai@bio.mie-u.ac.jp

農業農村工学会選書 17

機能保全における性能設計入門

(社)農業農村工学会発行

目次

第1章 性能設計の現状

- 1.1 はじめに
- 1.2 包括設計コード
- 1.3 性能設計の技術論的特徴
- 1.4 他分野の状況
- 1.5 農業・農村整備事業と性能設計
- 1.6 性能設計とストックマネジメント(マクロマネジメント)
- 1.7 補修・補強と性能規定化(ミクロマネジメント)
- 1.8 性能設計の到達点

第2章 信頼性の照査

- 2.1 施設の信頼性
- 2.2 部分安全係数法の理念と現状
- 2.3 レベル 信頼性設計法
- 2.4 レベル 信頼性設計法
- 2.5 感度係数とその意味
- 2.6 水利構造物に適した部分安全係数の値
- 2.7 開水路側壁基部の安全性に関する信頼性設計例
- 2.8 信頼性設計法の今後

第3章 安全性の照査

- 3.1 限界状態設計法の概要
- 3.2 構造物における安全性の照査

- 3.3 曲げモーメントおよび軸方向力に対する安全性の照査
- 3.4 せん断力に対する安全性の照査
- 3.5 終局限界状態の照査例

第4章 使用性の照査

- 4.1 使用限界状態の検討
- 4.2 断面力および応力度の算定法
- 4.3 曲げひび割れ発生時の照査
- 4.4 曲げひび割れ幅の照査
- 4.5 ひび割れの使用限界状態の照査例
- 4.6 今後の課題

第5章 耐久性の照査

- 5.1 長期構造性能の照査
- 5.2 農業水利構造物の耐久性設計
- 5.3 性能照査型のコンクリートの配合設計
- 5.4 鉄筋コンクリート開水路の耐久性設計例

第6章 機能保全

- 6.1 農業水利施設の機能保全
- 6.2 農業水利施設の機能診断

第7章 施工および補修・補強

- 7.1 RC開水路の施工
- 7.2 RC開水路の補修・補強

A5判 約200ページ 定価4,500円(内税・送料学会負担)
会員特価2,600円(内税・送料学会負担)
〔会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます〕

申込先 〒105 0004 港区新橋5 34 4
(社)農業農村工学会
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494